

あいちトリエンナーレ 2019 『表現の不自由展・その後』騒動について

後 山 剛 毅

(立命館大学大学院先端総合学術研究科 一貫制博士課程)

0、概要

愛知県名古屋市、豊田市で開催されていた芸術祭「あいちトリエンナーレ 2019」において、その展示の一部であった展覧会『表現の不自由展・その後』が、2019 年 8 月 4 日に中止に追い込まれた（中止発表は、8 月 3 日）ことに端を発する騒動。

1、あいちトリエンナーレ…愛知県で 2010 年から 3 年ごとに開催されている国際芸術祭（今年で 4 回目の開催）。

- ・あいちトリエンナーレ 2019
- ・テーマ：情の時代 Taming Y/Our Passion
- ・会期：2019 年 8 月 1 日～10 月 14 日（合計 75 日間）
- ・会場：名古屋市（愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、円頓寺商店街付近）
豊田市（豊田市美術館および豊田市駅周辺）
- ・芸術監督：津田大介（ジャーナリスト）
- ・主催：あいちトリエンナーレ実行委員会（会長：大村秀章・愛知県知事）

2、騒動の主な経過¹⁾

- 8 月 1 日… 『表現の不自由展・その後』に関して 200 件の抗議電話。
- 8 月 2 日… 松井一郎・大阪市長の助言で、河村・名古屋市長が『表現の不自由展・その後』を鑑賞後、大村知事に対し、『平和の少女像』の撤去を要請。「日本国民の心を踏みにじる行為で、行政の立場を超えた展示が行われている」と述べる。これに対して津田大介が緊急会見。河村の発言を憲法 21 条（「集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。検閲は、これをしてはならない。通信の秘密は、これを侵してはならない。」）に禁止された検閲に当たらないのではないかと示唆。大村会長と津田が面談。8 月 3 日をもって、展示を中止することを協議。
- 8 月 3 日… 大村・津田が記者会見を開き、『表現の不自由展・その後』の展示中止が決定。

由展・その後』の展示中止が決定。

- 8 月 6 日… 「あいちトリ 2019」参加アーティスト 72 組が声明文を発表。
- 8 月 12 日… 「表現の自由を守るために」と題されたオープン・レターに 12 組のアーティストが署名。
- 8 月 16 日… 愛知県が「あいちトリエンナーレのあり方検証委員会²⁾」を設置。初会合。
- 8 月 17 日… オープン・レターに署名した作家たちの展示変更が決定。
- 8 月 20 日… 12 組のアーティストが展示の中止、あるいは展示内容の変更を行った。その後も複数のアーティストが、展示変更・中止を行った。
- 8 月 27 日… 国際博物館会議が「表現の不自由展・その後」の中止について声明文を発表。
- 9 月 25 日… 「あいちトリエンナーレのあり方検証委員会」第 3 回会合で、中間報告がなされ、展示再開の方向性が定まる。
- 9 月 26 日… 文化庁が、交付の決定していた「あいちトリエンナーレ 2019」への補助金全額不交付を決定。
- 10 月 8 日… 『表現の不自由展・その後』の展示再開。ただし、鑑賞者は、抽選で 1 回につき 30 名。1 日で 180 名に限られる（8 日のみ 60 名）。
- 10 月 9 日… 展示再開後、新たに Chim ↑ Pom の《気合い 100 連発》のなかで、「被曝最高！」や「放射能最高！」がネット上で炎上した。
- 10 月中旬以降…ヨーロッパの研究者たちが「あいちトリエンナーレについての声明」を発表している。

3、問題となった作品

- 1、《平和の少女像》：8/2 の河村市長による抗議にみられるように、本騒動で最初に批判的になった。
- 2、《遠近を超えて—Part II》大浦信行：20 分に及ぶ映像作品のうち、天皇の御影を燃やすシーンが切り取

られ、批判された。

- 3、《^{とき}時代の肖像—絶滅危惧種 idiot JAPONICA 円墳—》
中垣克久
- 4、《気合い 100 連発》Chim ↑ Pom

→問題となったのは、『表現の不自由展・その後』の参加作品 23 作品のうち、4 作品。

4、展示中止による余波

- ・中止に反対する国内外のアーティスト、メディア、各種団体からの抗議
- ・不自由展以外への出展作品が中止を事実上の検閲と捉え、作品の展示を中止または出品変更（合計 13 組、29 作品（9 月 24 日））
- ・日本における作品展示は検閲の可能性を伴うため、今後の作品展示はボイコットする（出展を取りやめる）可能性が、国内外のアーティストから届けられる。

5、中間報告書にみられる『表現の不自由展・その後』に関する評価³⁾

●中間報告書の論点

- ・展示作品自体は問題ないが、キュレーションの方法や SNS への投稿に関する事前の準備が足らなかった⁴⁾。
- ・展示会場自体が、手狭であり、作品を十分に鑑賞できない展示方法であったために、鑑賞者の誤解を産んだ⁵⁾。

6、所感

- ・資料作成者は、2019 年 10 月 13 日～14 日にかけて「あいちトリエンナーレ 2019」を訪問。10 月 14 日 12 時 5 分から 40 分間、「表現の不自由展・その後」を鑑賞。一回につき 30 名の制限であったが、展示会場に入る前のセキュリティ・チェックを通過しても列が進まなかった。
- ・キュレーターの方が、通路の作品やキャプションで混雑があるので、先に進むよう促された。通路を素通りして、展示会場に入ったが、手狭であった。Chim ↑ Pom の作品を鑑賞し終ると、すでに自由鑑賞時間（20 分）の半分を過ぎていたため、急いで通路等の作品を鑑賞。
- ・展示室の奥に資料等があったが、興味のあるものを読むので精一杯だった。

・「表現の不自由展・その後」に関して、一連の騒動を黙認できないが、一鑑賞者としては、より十分な時間と空間が提供されるべきだと感じた。あまりにも急いで展示を見なければいけず、展示を鑑賞できたという感はなかった。

- ・ただ、《遠近を超えて—Part II》は 30 名で一斉鑑賞であったために、落ち着いて鑑賞することができた。
- ・最終的な感想として、「不自由展」以外の展示は、十分な展示スペースで展示を鑑賞できるが、なぜあの部屋は、あれほどまでに多くの作品が展示されていたのかは疑問だった。

注

- 1) 「騒動の主な経過」については、『美術手帖』のウェブサイト上にアップされている次の記事を参照した。
「あいちトリエンナーレ 2019「表現の不自由展・その後」展示中止にまつわる出来事のまとめ」(<https://bijutsutecho.com/magazine/news/headline/20294>)（最終閲覧日 2019 年 11 月 7 日）
- 2) あいちトリエンナーレのあり方検証委員会は、次のメンバーで構成されている。岩渕潤子（美術館運営・管理研究者、青山学院大学客員教授）、上山信一（副座長、公共政策学者、慶應義塾大学総合政策学部教授）、太下義之（文化政策研究者、独立行政法人国立美術館理事）、金井直（西洋美術史研究者、信州大学人文学部教授）、曾我部真裕（法学者、京都大学大学院法学研究科教授）、山梨俊夫（座長、独立行政法人国立美術館 国立国際美術館長）。
- 3) あいちトリエンナーレのあり方検証委員会、2019、「中間報告」（2019 年 9 月 25 日）に基づき要約。
- 4) 前掲「中間報告」42 頁。
- 5) 同上。